

IBM SPSS Collaboration and  
Deployment Services Enterprise  
View Driver 4.2 ユーザー ガイ  
ド



Note: Before using this information and the product it supports, read the general information under Notices p. 15 .

This document contains proprietary information of SPSS Inc, an IBM Company. It is provided under a license agreement and is protected by copyright law. The information contained in this publication does not include any product warranties, and any statements provided in this manual should not be interpreted as such.

When you send information to IBM or SPSS, you grant IBM and SPSS a nonexclusive right to use or distribute the information in any way it believes appropriate without incurring any obligation to you.

**© Copyright SPSS Inc. 2004, 2010..**

---

# はじめに

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver は、サードパーティのアプリケーションが、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository に格納されている IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Enterprise View オブジェクトにアクセスできるようにします。本マニュアルでは、すべてのサポートされたプラットフォームでのインストールと構成を説明しています。IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services の分析機能の日常的な使用に関連するタスクについては、『IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Manager マニュアル』に説明されています。

## テクニカル サポート

SPSS Inc. のユーザー登録を行ったお客様は、SPSS Inc. のテクニカルサポートをご利用いただけます。SPSS Inc. 製品の使用方法、または対応するハードウェア環境へのインストールについてサポートが必要な場合は、テクニカルサポートにご連絡ください。テクニカルサポートに連絡するには、SPSS Inc. ホームページ (<http://www.spss.co.jp>) をご覧になるか、SPSS Inc. 社までお問い合わせください。お客様の ID、所属する組織 ID、およびシステムのシリアル番号をお手元にご用意ください。

## ご意見をお寄せください

お客様のご意見は貴重な情報です。SPSS Inc. 製品に関するご意見、ご感想をお寄せください。E-mail: [jpsales@spss.com](mailto:jpsales@spss.com) 郵便: 〒150-0012 東京都渋谷区広尾 1-1-39 恵比寿プライムスクエアタワー 10F エス・ピー・エス・エス株式会社。

---

# 内容

<b>1 IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver</b>	<b>1</b>
要件	1
Windows ドライバのインストール	3
Microsoft ODBC Data Source Administrator を使用したドライバの構成	4
サードパーティのデータソース	5
Windows ドライバのアンインストール	6
UNIX ドライバのインストール	6
UNIX ODBC ドライバの構成	9
IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver の設定	9
ネイティブ データソースの構成	9
UNIX ドライバのアンインストール	11
サイレント インストール	11
IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View URL	12
既知の制約事項	14

## 付録

<b>A Notices</b>	<b>15</b>
------------------	-----------

<b>索引</b>	<b>18</b>
-----------	-----------

# IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver は、サードパーティのアプリケーションが、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository に格納されている IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Enterprise View オブジェクトにアクセスできるようにします。ドライバの動作は一般的なデータベースドライバに似ていますが、直接物理データソースに対してクエリーを実行するのではなく、データプロバイダの定義およびアプリケーションビューを参照します。アプリケーションビューには定義済みのテーブルと列構造が用意され、データプロバイダの定義はアプリケーションビューの論理テーブルと列を物理データソースの論理テーブルと列にマップします。

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View オブジェクトの操作方法の詳細は、『IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Manager User's Guide』を参照してください。

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver には、JDBC および ODBC にアクセスするためのドライバが用意されています。

## 要件

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver は、次のオペレーションシステムにインストールできます。

## Windows

オペレーティングシステム	エディション	リリース	プロセッサ	ワードサイズ	必要なパッチレベル
Windows Server		2008	x86	32 ビット	
Windows Server		2008	x64	64 ビット	
Windows Server	Standard	2003 R2	x86	32 ビット	
Windows Server	Standard	2003	x86	32 ビット	SP2
Windows Server	Standard	2003; 2003 R2	x64	64 ビット	
Windows	7	Professional; Enterprise	x86	32 ビット	
Windows	7	Professional; Enterprise	x64	64 ビット	
Windows	Vista	Business; Enterprise	x86	32 ビット	SP1
Windows	Vista	Business; Enterprise	x64	64 ビット	SP1
Windows	XP	Pro	x86	32 ビット	SP3
Windows	XP	Pro	x64	64 ビット	SP3

## Unix

オペレーティングシステム	エディション	リリース	プロセッサ	ワードサイズ
AIX		6.1	POWER	64 ビット
AIX		5.3	POWER	64 ビット
HP-UX		11i v3	Itanium	64 ビット
Red Hat Enterprise Linux	Enterprise、Advanced Platform	5. x	x86	32 ビット
Red Hat Enterprise Linux	Enterprise、Advanced Platform	5. x	x64	64 ビット
Red Hat Enterprise Linux	Advanced Server	4. x	x64	64 ビット
Red Hat Enterprise Linux	Enterprise	4. x x86	x86	32 ビット

オペレーティングシステム	エディション	リリース	プロセッサ	ワードサイズ
Red Hat Enterprise Linux	Enterprise	4. x x64	x64	64 ビット
Solaris		10	SPARC	64 ビット
Solaris		9. x	SPARC	64 ビット
SuSE	Enterprise Server	10	s390x for IBM System z10	64 ビット

ドライバをインストールするには、オペレーティングシステムに関係なくハードドライブに約 100 MB の空き容量が必要です。JVM 1.5 以降がない場合、ドライバをインストールする前に JVM 1.5 以降をインストールする必要があります。

## Windows ドライバのインストール

Windows ドライバをインストールするには、まず Windows Data Access Pack を <http://www.spss.com/drivers/client.htm> からダウンロードしてインストールします。ここで説明する手順では、例として Data Access Pack がデフォルトのインストールディレクトリ `C:\Program Files\SPSSOEM` にインストールされていると想定しています。インストールの詳細は、Data Access Pack のドキュメントを参照してください。

Data Access Pack をインストールした後、次のいずれかの方法で IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver をインストールします。

- インストールメディアからインストールするには、Disk 2 の /EV ディレクトリにある、オペレーションシステムに適した実行可能ファイルを起動します。インストーラには GUI とコンソールの 2 種類のモードがあります。インストーラは、デフォルトでは GUI モードを使用します。インストーラのコマンドラインに `-console` パラメータを追加すると、コンソールを使用してインストールできます。次に例を示します。

```
setupWindows64-amd64.exe -i console
```

- IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services サーバーからインストールするには、次の URL を使用します。この場合、`servername` は IBM SPSS Collaboration and Deployment Services サーバー名、`port` は IBM SPSS Collaboration and Deployment Services サーバーのポート番号です。

```
http://<servername>:<port>/pevdriverinstall
```

インストールウィザードのプロンプトに従い、ドライバのインストールを完了します。

## Microsoft ODBC Data Source Administrator を使用したドライバの構成

IBM® SPSS® Modeler などのいくつかのアプリケーションは、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Enterprise View をネイティブに認識し、その項目を直接処理できます。ただし、アプリケーションが IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View をネイティブに認識できない場合、Microsoft ODBC Data Source Administrator を使用してドライバを設定する必要があります。次の構成設定は、Microsoft ODBC Data Source Administrator の IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver の実装に適用されます。

**データソース名：**適切なデータソース名を指定します。ODBC アプリケーションは、データソースに対して接続要求を行う際にこのデータソース名を使用します。この名前は、ODBC Data Source Administrator の User DSN セクションに表示されます。

**説明：**データソースの説明を入力します（オプション）。

**ホスト：**接続先の IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services サーバーの名前または IP アドレスを入力します。

**ポート：**IBM SPSS Collaboration and Deployment Services サーバーのポート番号を入力します。

**IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository への接続：**このオプションを有効にして、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository のユーザー名とパスワードを指定し、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View オブジェクト情報を取得します（[次へ] をクリックするとアクセス可能）。

**ユーザー名：**IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository ユーザー名を入力します。このユーザー名には、リポジトリ内の IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View オブジェクトの読み取りアクセスが許可されていることが必要です。

**パスワード：**指定したユーザー名のパスワードを入力します。

- ▶ [次へ] をクリックして IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View 固有のオブジェクト情報を選択します。

**アプリケーションビュー：**現在リポジトリにあるすべてのビューのリストから適切なアプリケーションビューを選択します。アプリケーションビューは、ツールまたはアプリケーションのユーザーに表示される情報を制限



する方法を提供します。システム管理者またはデータの専門家はアプリケーション上の観点からデータを表示できます。

**環境：**すべての有効な環境がドロップダウン フィールドに一覧表示されます。環境設定では、どの特定の列を定義済みのビジネス セグメントに関連付けるかを判断する手段が示されます。たとえば [分析] を選択した場合は、[分析] として定義されている アプリケーション ビュー 列のみが返されます。またこの設定は、[データ プロバイダ] フィールドに表示される データ プロバイダの定義 オプションを、選択した環境でサポートされるものだけに限定します。

**データ プロバイダ：**現在リポジトリにあるすべてのリストから データ プロバイダの定義 を選択します。データ プロバイダの定義では、アプリケーション ビューの論理列の定義を顧客データベースの物理テーブル列にマップすることによって各段階のデータを管理します。また、データ プロバイダの定義 は、データのアクセスに使用する資格情報やデータ ソースも指定します。

**ラベル：**指定された データ プロバイダの定義 に定義されているすべてのラベルがドロップダウン フィールドに一覧表示されます。ラベルは IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View オブジェクトのバージョンを識別するのに役立ちます。たとえば、特定の Enterprise View、アプリケーション ビュー、および データ プロバイダの定義 に 2 つのバージョンが存在することがあります。ラベルを用いて、開発環境で使ったバージョンに対してラベル [テスト] を指定し、運用環境で使ったバージョンについてはラベル [運用] を指定します。指定したラベルは、すべての IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View オブジェクトに対して存在する必要があります。

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View オブジェクトの処理の詳細は、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Manager のドキュメンテーションを参照してください。

## サード パーティのデータ ソース

サード パーティのデータ ソース (SQL Native Client など) を構成する場合、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver で発生する可能性のある問題を回避するには、次の必要条件に従う必要があります。

- ODBC データ ソースの場合、参照される ODBC データ ソース名 (DSN) は IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver がインストールされているのと同じシステム上に存在している必要がある。

- DSN を構成する場合、タイプ (Oracle、SQL Server、DB2 など) に関係なく、引用符付き識別子オプションを有効にする (使用可能な場合)。
- DSN を構成する場合、タイプ (Oracle、SQL Server、DB2 など) に関係なく、適切なデフォルトのデータベース情報を指定する必要がある。

## Windows ドライバのアンインストール

Windows IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver をアンインストールするには、次の手順を実行します。

- ▶ Windows の [コントロール パネル] の [アプリケーションの追加と削除] をクリックします。
- ▶ [IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver] エントリを選択して [変更と削除] をクリックします。
- ▶ ウィザードのダイアログで [アンインストール] をクリックしてアンインストールを完了します。

## UNIX ドライバのインストール

UNIX ドライバをインストールするには、まず UNIX Data Access Pack を <http://www.spss.com/drivers/client.htm> からダウンロードしてインストールします。インストールメディアから Data Access Pack をインストールすることもできます。ここで説明する手順では、例として Data Access Pack がデフォルトのインストールディレクトリ `/opt/odbc/` にインストールされていると想定しています。インストールの詳細は、Data Access Pack のドキュメントを参照してください。ドライバをインストールするには `superuser` の権限が必要です。

Data Access Pack をインストールした後、インストールメディアのリポジトリサーバーから IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver をインストールします。サーバーからインストールするには、次の URL を使用します。この場合、`servername` は IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services サーバー名、`port` は IBM SPSS Collaboration and Deployment Services サーバーのポート番号です。

```
http://<servername>:<port>/pevdriverinstall
```

サーバーから IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver をダウンロードした後、ドライバのファイルが実行可能であることを確認してください。ファイルの実行可能ステータスは、ユーザー インターフェイスを使用してチェックします。または UNIX シェルの `CHMOD` コマンドを使用します。

または、インストールメディアを使用し、次のようにシステムに適切なコマンドで光学ドライブをマウントします。

- Linux 環境では次のコマンドを入力します。<device> は光学ドライブに割り当てられたデバイス名です。

```
# mount -r -t iso9660 /dev/<device> /mnt/cdrom
```

- HP-UX 環境では、次のコマンドを入力します。

```
# mount -f cdrfs <device path> <mount point>
```

- AIX 環境では、次のコマンドを入力します。

```
# mount -rv cdrfs <device path> <mount point>
```

- Solaris では光学ドライブが自動的にマウントされます。

インストーラには GUI とコンソールの 2 種類のモードがあります。インストーラは、デフォルトでは GUI モードを使用します。インストーラのコマンドラインに **-console** パラメータを追加すると、コンソールを使用してインストールできます。たとえば 32 ビット Linux の場合、コマンドは次のようになります。

```
./setupLinux32-x86.bin -i console
```

インストール ウィザードのプロンプトに従い、ドライバのインストールを完了します。ドライバの設定時にパスを手動で定義する必要があるため、場所をメモしてください。デフォルトのパスと同様に、インストールパスにスペースが含まれている場合は、パスを使用する際にスペースをエスケープするか、パス全体を引用符で囲む必要があります。

## UNIX ODBC ドライバの構成

UNIX ODBC ドライバの設定では、次の手順を実行します。

- ▶ IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver の設定
- ▶ ネイティブ データ ソースの構成

## IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver の設定

インストールが完了したら、環境を設定し、ドライバ マネージャを使用して IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver を登録するためにいくつかの手順を手動で実行します。

- ▶ 環境設定は、Data Access Pack 構成の環境設定と同じ手順です。この手順では、適切なシステムまたはユーザー プロファイルを変更して、**pev** セットアップ スクリプトをソース指定する呼び出しを含めます。スクリ

プトは IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver インストール ディレクトリにあります。次の 2 つのセットアップ スクリプトが提供されます。

- **pev.sh** - sh、ash、bash、ksh、zsh (Bourne シェル)
- **pev.csh** - csh、tcsh (C シェル)

**pev.sh** セットアップ スクリプトをソース指定する方法は、Data Access Pack の **odbc.sh** セットアップ スクリプトをソース指定する方法と同様です。スクリプトは SPSS Data Access Pack のインストール時に追加されます。詳細については、DataDirect™ のドキュメントを参照してください (<http://www.spss.com/drivers/merant.htm>)。

注 :**sudo** を使用して IBM® SPSS® Modeler を起動している場合は、使用している SPSS Modeler のスタートアップ スクリプト内で **pev.sh** スクリプトをソース指定する必要があります。また **odbc.sh** スクリプトもソース指定する必要があります。これは SPSS Modeler スタートアップ スクリプトに既に含まれている場合があります。**odbc.sh** スクリプトをソース指定する呼び出しの後に、**pev.sh** スクリプトをソース指定する呼び出しを追加します。詳細は『SPSS Modeler ODBC Installation Guide for UNIX』を参照してください。

- **pev.sh** のソースが正常に指定されていることを確認するには、新しいシェルセッションからスクリプトをソース指定し、**set** (Bourne シェル) または **env** (C シェル) と入力します。表示される環境変数のリストで、次の変数のいずれかを確認します。

Linux、Solaris、HP-UX の場合: **LD\_LIBRARY\_PATH**

AIX の場合: **LIBPATH**

この変数の値には、使用している IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver のインストール ディレクトリへの参照が含まれています。参照が含まれていない場合は、使用している構成に合わせてシェル スクリプトを編集する必要があります。

シェル スクリプトは使用可能な Java JNI 環境の検索を試行します。このスクリプトは、標準の Java インストール ディレクトリを検索して環境を構成します。検出には時間がかかる場合があります。シェル スクリプトのソース指定に必要な時間を低減するには、スクリプト内で **PEV\_SHARED\_LIBRARY\_PATH** 変数を設定して検索を省略します。この値を前回の実行スクリプトからコピーしておくことを強くお勧めします。スクリプトには、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver インストール ディレクトリだけでなく、JNI 呼び出しの実行に必要な Java ライブラリパスも含まれていることが必要です。

- ▶ 任意のエディタで **odbcinst.ini** ファイルを編集することにより、DataDirect ドライバ マネージャを使用して IBM SPSS Collaboration and Deployment

Services Enterprise View Driver を登録します。デフォルトでは、このファイルは Data Access Pack のベース ディレクトリ (`/opt/odbc/`) にあります。Data Access Pack がデフォルトの場所にインストールされていない場合に、`odbcinst.ini` ファイルの場所を確認するには、`ODBCINST` 環境変数を調べてください。

- 新しいドライバがインストールされている場所を定義するには、`odbcinst.ini` ファイルの `[ODBC Drivers]` セクションに次の行を追加します。

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver=Installed

- IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver に関する情報をドライバ マネージャに対して指定します。`odbcinst.ini` ファイルの最後に次の行を追加します。

[IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver]

Driver=libpev-driver.so

APILevel=1

ConnectFunctions=YYY

Driver=libpev-driver.so

DriverODBCVer=3.52

FileUsage=0

SQLLevel=1

- ▶ 変更内容を保存して、エディタを終了します。この時点で、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver は完全にインストール済みで、ドライバ マネージャに登録されています。インストール内容を確認するには、`/opt/odbc/bin` ディレクトリ (32 ビットインストールの場合は `ivtestlib`、64 ビットインストールの場合は `ddtestlib`) にある Data Direct ユーティリティを使用します。コマンドラインから「`/opt/odbc/bin/ivtestlib libpev-driver.so`」と入力して `Enter` キーを押します。このテストに失敗した場合は、シェル環境内で ODBC と IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Enterprise View のスクリプトが正しく指定 (source) されていることを確認してください。

## ネイティブ データ ソースの構成

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Enterprise View ドライバを使用するには、ネイティブ データ ソースを作成する必要があります。データ ソースは Data Access Pack のベース ディレクトリ (`/opt/odbc/`) にある `odbc.ini` ファイルに追加されます。Data Access Pack を使用してファイルがインストールされると、使用可能な各ドライバに対してサンプルのデータ ソースが追加されます。これらは、新しいデータ ソースを作成するときに使用する必要があるテンプレートです。MS SQL Server データ ソースのエントリの例を以下に示します。

```
[ODBC Data Sources]
SQLServer Wire Protocol=SPSS 5.2 SQL Server Wire Protocol
```

```
[SQLServer Wire Protocol]
Driver=/opt/odbc/lib/XEmsss24.so
Description=SPSS Inc. 6.0 SQL Server Wire Protocol
Address=<SQLServer_host, SQLServer_server_port>
AlternateServers=
AnsiNPW=Yes
ConnectionRetryCount=0
ConnectionRetryDelay=3
Database=<database_name>
FetchTSWTZasTimestamp=0
FetchTWFSasTime=0
LoadBalancing=0
LogonID=
Password=
QuotedId=No
ReportCodepageConversionErrors=0
ReportDateTimeType=0
SnapshotSerializable=0
```

データ ソースの定義には 2 つのステップがあります。

- ▶ 最初のステップでは、新しいデータ ソースの名前と説明を定義します。これは、ファイルの一番先頭の **[ODBC データ ソース]** という見出しで行います。新しいデータ ソースを **<DSN>=<説明>** という形式で追加します。**[DSN]** は、外部アプリケーションがデータ ソースの参照に使用する名前です。**[説明]** は、さまざまなデータ ソースを識別し区別するのに役立ちます。
- ▶ 2 番目のステップでは、**odbc.ini** ファイルに新しいセクションを追加して、ドライバ固有の設定を構成します。セクションの見出しは、データ ソースを定義したときにファイルの先頭で選択したデータ ソース名と一致する必要があります。構成セクションで唯一システムで必要な入力エントリは、ドライバの場所です。このエントリをセクションの最初に記述することが慣習となっています。形式は **Driver=<ドライバの場所>** です。それ以外のエントリはドライバ固有のもので、必要に応じて記述します。

すべてのネイティブ データ ソースを定義すると、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver を使用できる状態になります。

データ ソースを IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver で使用する場合は、ネイティブ ドライバで引用符付き識別子を有効にする必要があります。上記の例では、SQL Server ドライバに **QuotedId=No** というエントリ (デフォルト値) が含まれています。このエントリを **QuotedId=Yes** に変更します。エントリ名はドライバのタイプ

によって異なる場合があることに留意して、この設定に対するドライバの構成オプションを確認します。

**注:QEWS**D パラメータの値はシステムによって自動生成されるので、既存のドライバ定義からコピーしないようにしてください。

## UNIX ドライバのアンインストール

UNIX IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver をアンインストールするには、次の手順を実行します。

- ▶ IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver インストール ディレクトリの、\_uninst ディレクトリに移動します。
- ▶ \_uninst ディレクトリから ./uninstall を起動します。
- ▶ IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver をアンインストールした後で、「UNIX ODBC ドライバの構成」セクションに追加されている設定を手動で削除してください。

## サイレント インストール

サイレント モードを使用すると、ユーザーの相互作用なくインストールを実行できます。インストール パラメータは、プロパティ ファイルとして指定されます。この機能を使用して、大きなネットワーク環境におけるアプリケーションのインストールを自動化できます。インストール ディスク 2 には、サイレント インストールを有効にするプロパティ ファイルが含まれています (¥Administration¥<product name>¥SilentInstallOptions)。

### オプション ファイルの使用方法

- ▶ オプション ファイルをメディアからファイル システムにコピーします。
- ▶ テキスト エディタでこのコピーしたオプション ファイルを開きます。
- ▶ 必要に応じて、オプションを変更します。いくつかのオプションでは文字列値が必要ですが、インストーラの選択内容にタイプするオプションは 0 (オフ) または 1 (オン) に設定できます。

### サイレント インストールを実行するには

次のスイッチのコマンド ラインからインストール プログラムを実行します。

- `-i silent`: インターフェイス モードをサイレントに設定
- `-f "<properties file path>"`: プロパティ ファイルを指定

たとえば 32 ビット Linux 環境で IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver をサイレントにインストールするには、コマンドは次のようになります。

```
setupLinux32-x86.bin -i silent -f "<properties file path>"
```

プロパティ ファイルの絶対パスまたは相対パスを使用できます。パスを指定しない場合、プロパティ ファイルはインストール プログラムと同じディレクトリにある必要があります。

## IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View URL

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Enterprise View 接続 URL のパラメータを次の表に示します。

テーブル 1-1  
URL パラメータ

DSN (ODBC のみ)	必須	IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View をシステム ODBC データ ソースとして識別します。
DRIVER (ODBC のみ)	必須	ドライバ名。
PEV.HOST (ODBC のみ)	必須	IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository ホスト。
PEV.PORT (ODBC のみ)	必須	指定のホストの IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository にアクセスするためのポート番号。
UID	オプション	データ ソース接続用の IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services ユーザー ID。JDBC の場合は、ドライバの接続プロパティでユーザー ID を渡すこともできます。
PWD	オプション	IBM SPSS Collaboration and Deployment Services ユーザー パスワード。JDBC の場合は、ドライバの接続プロパティでユーザー ID を渡すこともできます。
PEV.PROVIDER	オプション	接続の認証に使用するセキュリティプロバイダ。プロバイダもドメインも指定されていない場合は、ネイティブの IBM SPSS Collaboration and Deployment Services セキュリティが使用されます。
PEV.SECURE	オプション	リポジトリへの接続をセキュリティで保護する場合は、このフラグを true に設定する必要があります。デフォルトは偽 (false) です。
PEV.DOMAIN	オプション	リポジトリ接続の認証に使用されるアクティブ ディレクトリ ドメイン。
PEV.DESC	オプション	データ ソースの説明。
PEV.DPD	必須	データ プロバイダの定義のリポジトリパス。



## IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver

PEV. DPD. ID	必須	データ プロバイダの定義 のリポジトリ ID。
PEV. LABEL	必須	データ プロバイダの定義 のバージョン ラベル。
PEV. ENV	オプション	分析、操作、またはレポート作成のどの Enterprise View 環境を使用するかを指定します。デフォルト値は選択された データ プロバイダの定義 に基づいて決定され、ドライバでは検証できないため、この環境を指定することを強くお勧めします。
PEV. AV	オプション	アプリケーション ビュー のリポジトリ パス。デフォルト値は選択された データ プロバイダの定義 に基づいて決定され、ドライバでは検証できないため、このアプリケーション ビュー を指定することを強くお勧めします。
PEV. AV. ID	オプション	アプリケーション ビュー のリポジトリ ID。
PEV. LOG_FILE (JDBC のみ)	オプション	使用する log4j ログ ファイル。
PEV. LOG_LEVEL (JDBC のみ)	オプション	log4j ログ レベル。

JDBC ドライバ クラス名は `com.spss.pev.driver.jdbc.PEVDriver` です。  
JDBC URL の形式は次のとおりです。

```
jdbc:pev://<server>:<port>;<parameters>
```

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View JDBC URL の例を次に示します。

```
jdbc:pev://cds01:8080;PEV.ENV=analytic;PEV.LABEL=LATEST;PEV.DPD=/JONESCORP/DPD;PEV.AV=/JONESCORP/AV
```

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View ODBC 接続では、DSN と DRIVER のいずれかまたは両方を指定する必要があります。DSN を使用して ODBC 接続を確立する場合、必要なフィールドはすべて、データ ソース構成を通じて渡されます。ドライバ指定を使用する場合（システム上で IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View ODBC データ ソースが構成されていない場合など）は、アプリケーションがすべての必須フィールドをドライバ接続文字列で指定する必要があります。フィールドは次のとおりです。

- DRIVER
- UID
- PWD
- PEV. HOST
- PEV. PORT
- PEV. DPD と PEV. DPD. ID のいずれかまたは両方

- PEV.LABEL

#### メモ

- データ プロバイダの定義は、リポジトリ パスとリソース ID のいずれかまたは両方として指定する必要があります。アプリケーション ビューも、パスまたは ID として指定できます。リポジトリ ID を使用する場合に指定する値は、オブジェクト URI の英数字部分です (たとえば `ac140f2817f156cd0000011580516f1c802e`)。リポジトリ リソース ID を使用すると、オブジェクト リポジトリ パスが変更された場合でも接続は保持されます。パスと ID の両方がドライバに渡された場合は、ID の使用が試行され、使用できない場合はパスが代わりに使用されます。
- ドライバに渡されるユーザー名は、適切な形式の IBM SPSS Collaboration and Deployment Services ユーザー名であることが必要です。プロバイダもドメインも指定されていない場合は、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services ネイティブ セキュリティによってユーザーの認証が行われます。他のセキュリティ プロバイダの場合のユーザー フィールドの形式は、`<セキュリティプロバイダ ID><セキュリティプロバイダ ドメイン><ユーザー名>` です。この形式ではなく、PEV.PROVIDER パラメータと PEV.DOMAIN パラメータを個別に指定することもできます。

## 既知の制約事項

- ▶ UNIX ベース オペレーティング システムでは、BIGINT 型は numeric(19,0) として扱われます。その結果、精度が損失することがあります。

# Notices

Licensed Materials – Property of SPSS Inc., an IBM Company. © Copyright SPSS Inc. 2004, 2010..

Patent No. 7,023,453

**The following paragraph does not apply to the United Kingdom or any other country where such provisions are inconsistent with local law:** SPSS INC., AN IBM COMPANY, PROVIDES THIS PUBLICATION “AS IS” WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF NON-INFRINGEMENT, MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. Some states do not allow disclaimer of express or implied warranties in certain transactions, therefore, this statement may not apply to you.

This information could include technical inaccuracies or typographical errors. Changes are periodically made to the information herein; these changes will be incorporated in new editions of the publication. SPSS Inc. may make improvements and/or changes in the product(s) and/or the program(s) described in this publication at any time without notice.

Any references in this information to non-SPSS and non-IBM Web sites are provided for convenience only and do not in any manner serve as an endorsement of those Web sites. The materials at those Web sites are not part of the materials for this SPSS Inc. product and use of those Web sites is at your own risk.

When you send information to IBM or SPSS, you grant IBM and SPSS a nonexclusive right to use or distribute the information in any way it believes appropriate without incurring any obligation to you.

Information concerning non-SPSS products was obtained from the suppliers of those products, their published announcements or other publicly available sources. SPSS has not tested those products and cannot confirm the accuracy of performance, compatibility or any other claims related to non-SPSS products. Questions on the capabilities of non-SPSS products should be addressed to the suppliers of those products.

This information contains examples of data and reports used in daily business operations. To illustrate them as completely as possible, the examples include the names of individuals, companies, brands, and products. All of these names are fictitious and any similarity to the names and addresses used by an actual business enterprise is entirely coincidental.

#### COPYRIGHT LICENSE:

This information contains sample application programs in source language, which illustrate programming techniques on various operating platforms. You may copy, modify, and distribute these sample programs in any form without payment to SPSS Inc., for the purposes of developing, using, marketing or distributing application programs conforming to the application programming interface for the operating platform for which the sample programs are written. These examples have not been thoroughly tested under all conditions. SPSS Inc., therefore, cannot guarantee or imply reliability, serviceability, or function of these programs. The sample programs are provided “AS IS”, without warranty of any kind. SPSS Inc. shall not be liable for any damages arising out of your use of the sample programs.

#### Trademarks

IBM, the IBM logo, and [ibm.com](http://www.ibm.com) are trademarks of IBM Corporation, registered in many jurisdictions worldwide. A current list of IBM trademarks is available on the Web at <http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml>.

SPSS is a trademark SPSS and Showcase are trademarks of SPSS Inc., an IBM Company, registered in many jurisdictions worldwide.

Adobe, the Adobe logo, PostScript, and the PostScript logo are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States, and/or other countries.

Linux is a registered trademark of Linus Torvalds in the United States, other countries, or both.

Microsoft, Windows, Windows NT, and the Windows logo are trademarks of Microsoft Corporation in the United States, other countries, or both.

UNIX is a registered trademark of The Open Group in the United States and other countries.

Java and all Java-based trademarks and logos are trademarks of Sun Microsystems, Inc. in the United States, other countries, or both.

Other product and service names might be trademarks of IBM, SPSS, or other companies.

Adobe product screenshot(s) reprinted with permission from Adobe Systems Incorporated.

Microsoft product screenshot(s) reprinted with permission from Microsoft Corporation.



---

# 索引

## 設定

Microsoft ODBC Data Source Administrator,  
4

UNIX, 9

サードパーティのデータソース, 5

概要, 1

JDBC 接続, 12

legal notices, 15

trademarks, 16

## アンインストール

UNIX ドライバ, 11

Windows ドライバ, 6

## インストール

UNIX, 6

Windows, 3

サードパーティのデータソース, 5